

第 三 部

知的障害のある児童生徒の内発的動機づけを重視した授業実践例

事例1 生活単元学習「クッキーづくり」授業実践（小学校特殊学級）

1. 学級（集団）概要

(1) 児童数

- ①全校児童数700名弱，知的障害学級と情緒障害学級（いわゆる固定式）がある。
- ②知的障害学級在籍児童数：2年生1名，3年生1名，4年生2名，5年生1名
計5名
- ③情緒障害学級在籍児童数：1年生2名(A・B)，3年生1名(C)，5年生1名(D)
6年生1名(E) 計5名

(2) 指導体制

- ①知的障害学級・情緒障害学級 各 担任1名，指導員1名
- ②生活単元学習のみ，合同で学習している。

(3) 週時程について

- ①それぞれ，学年相当の時間割
- ②交流学习は，児童の実態に応じて行う。交流学习の教科の設定をしているが，活動内容が合う時に，交流学級で学習している。
A・B：国語の図書，生活，音楽，体育，図工，特別活動
C：理科，社会，書写，国語の図書，総合，音楽，体育，図工，特別活動
D：算数（計算領域），理科，総合，音楽，体育，図工，家庭科，特別活動
E：音楽，体育，家庭科（実習），特別活動（E児については，理科・社会の時間を生活単元学習とし，他の児童より年間の時数を多くしている。）
- ③生活単元学習は，特定の交流教科の授業時数が少なくなるのを防ぐため，学校行事・学年行事を考えて，様々な曜日に設定する。
A・B・C・D：年間140時間。

(4) 年間指導計画（資料1参照）

2. 実践の経過

(1) 実践の概要

生活単元学習において，児童の内発的動機付けを重視した授業を考えた。昨年度までの授業で，内発的動機付けを促す要件として次の事柄を考えてきた。

- ①はじめてでもできる
- ②今の力でできる
- ③今できていることがわかる
- ④今何をしているのかがわかる
- ⑤子ども同士のかかわりがある
- ⑥選んで活動する場面がある

今年度は、これらに次の事柄を加えて検討することとした。

⑦大まかな見通しを持つ

4月と12月に行ったクッキー作りの学習を中心に、経過をまとめる。

(2) 児童の実態（資料2参照）

(3) 単元「クッキーを作ろう」指導計画 全5時間

第1次	クッキーづくりの材料と道具	1時間
第2次	買い物	1時間
第3次	調理の大まかな流れについて	1時間
	クッキー作り	2時間

(4) はじめの授業展開と児童の様子

今年度は、1年生が2名入ってきた。自分で何かをするということを思いつかない様子で、4月のクッキー作りの時にも、予想通り、大人からの働きかけをにこにこしながら待っていた。

第1次では、クッキーづくりの材料と道具について、高学年の児童の力を借りながら、学習した。材料の名前・道具の名前を読み、「実物を探す」→「わからないときは聞く」→「実物がわかったら、シールを探して貼る」という作業をした。「知ってる。」「知らない。」「どれ?」「ちがうよ。」「これだってば。」と、探す活動を楽しんだ。

第2次では、近くのスーパーに買い物に行った。学校の外に出るときには、だれかがガイドさんになり、みんなの先頭を歩く。ガイドさんは、必ずしも道を知っていなくてもよい。「わからなければ、聞いたらいいんだもんね。」と、いつも確認している。道案内をする人、道案内を支える人と、お互いに役割を交代しながら活動している。スーパーの中では、「どこにあるか、探してみてね。」と声をかけておき、子どもたちが探し出すのを見守っている。このときには、1年生の子どもたちは、ガイドさんについて歩くのを一生懸命やっているといった様子だった。

第3次では、まず、「⑦ 大まかな見通しを持つ」ことを学習した。調理の学習であれば必ずやることを書いた穴埋めプリント（資料3）を用意し、書き込みながら、「自分がやること」がはっきりするようにした。上の学年の児童は、経験と照らし合わせながら、思いついた項目を挙手して言い、1年生の児童は、それを聞いて、「あっ、そうか。」「このことか。」と、イメージしていた。

聞き取っただけでいくつかのことを続けて実行することが難しい子どもたちである。「書き込む」「見る」という方法を使い、目に見えるものを手がかりにすることで自分から活動しやすくしたいという願いがある。

このときのクッキー作りは、みんなでやってみた。レシピは、子どもに合わせたものを準備し、一つ一つ見ながらやっていった。それぞれの作業を交代しながら、やった。「混ぜるのやりたい人?」「はい。」「ボール、支えて。」「ありがとう。」と、一つ一つの作業を楽しんでいた。試食もうれしそうだったが、「自分でやるぞ」「やりきるぞ」という勢いや、「やりきった」という気持ちは、今ひとつの様子に見えた。

(5) 授業作りの検討事項及び留意点

- ①「⑦大まかな見通し」については、繰り返しが必要。
→調理のたびに繰り返す。(校外学習・栽培活動についても同様)
- ② しかったけど、自分でやりきった感じが少ない。
→自分が選ぶ場面が、少なかったのではないか。
→自分で、作りたいクッキーを選んで、「自分が作る」という意識を強く持ってもらいたい。
→これを見たらできる」というレシピを自分で選ぶ。
- ③子ども同士の関わりが少ない。
→自分の力を生かして、人の役に立つ場面が少なかったのではないか。
→異年齢集団を生かし、できることを生かす場面を意図的に設定する。

以上を踏まえ、次の12月のクッキー作りでは、次の事柄を加えて実践した。

⑧わかる資料を子どもが選ぶ

⑨頼り、頼られる場面の設定

(6) 改善した生活単元学習「クッキーを作ろう」(全6時間)の授業展開と児童の様子

第1次	作りたいクッキーを選ぼう 「これなら作れる」レシピを選ぼう	1時間
第2次	材料と道具をさがそう (材料を書き出そう・さがそう)	1時間
第3次	買い物に行こう	1時間
第4次	クッキーを作ろう (大まかな流れ・作ろう)	2時間
第5次	プレゼントしよう (クッキーの袋詰め・レシピをあげよう)	1時間

第1次の「作りたいクッキーを作る」「これなら作れるレシピを選ぼう」では、クッキーのレシピをカラーコピーしたものを子ども達の目の前に広げた。瞬間、作りたいものを決めているD君、ちらっと見るE君、「う〜ん。」と、考え込んでいる様子のC君、じっくり見ているAちゃん、「これ!」と言っているB君。Aちゃんは、決めているんだけど、「言うまで待ってね。」という様子だったので、「Aちゃんは、どれにするんかねえ。」とみんなで待った。Aちゃんが選んで指さすと、「Aちゃんは、マーガレットクッキーね。」と言い、うれしそうな面々。反応はさまざまだったが、「自分で作るんだ」という雰囲気を感じ取った様子だった。それぞれが選んだクッキーの写真を見せながら、クッキーの名前を言い、確認した。

「自分で作るんだから、『これならわかるよ。』っていうの、見つけてね。」と、レシピの見本を出した。E君が、声に出して言いやすいように、それぞれのレシピの形式に名前(「カード」「ひらがな」「ふりがな」「ほんのつくりかた」)を書いた色画用紙を添えた。E君は、「カード。」と読み、ちょうどよいものを選ぶのに成功。D君は、「本の作り方」。C君は、ふりがな付きのレシピ。Aちゃんは、迷いながらも、カードに決めた。

B君(1年生)は、「ほんのつくりかた」を選んでしたが、選ぶ対象がよくわかっていなかった様子で、「自分の型抜きクッキーのレシピ」という意味で選んでいた。そこで、「これ、

読める？」と尋ねると、「読める。」これは、「わかるところは読める。」という意味の「読める」だった。「全部がわからないと作れない」という見通しが立っていなかった。このように聞いてみて、B君の理解の仕方が、よくわかった。最終的には、やりとりをしているうちに、「レシピの形式を選ぶ」という意図がわかり、ひらがなのレシピを選んでいて、いらないやりとりをしないで、「自分が選んだものでやってみて、難しかったら、レシピの形式を選びなおす」というふうになれば、さらに実地的な学習になったのにと、悔やまれた。

第2次の「材料と道具をさがそう」では、材料を書き写す作業をした。このときには、D君が、文字を読む仕事で、大活躍。Aちゃんに、「わからんときは、D君に聞いてみたら？」と言っているのを、素早くキャッチして、「なにになに？」とすでに、Aちゃんのそばに来ている。B君も、「D君、これ。」と、何回も聞き、答えてもらえるのがうれしそう

それぞれ、材料の表ができたところで、D君が、すべての材料の総量を計算。そのあと、教室内のあちこちから、今ある材料を見つけ出した。今回は、量にも気をつけることにし、「足りる？」「あと、どれだけいる？」も計算で出した。作るために必要なもので、投げ出さずに最後まで、やりきることができた。足りないもののリストができ、買い物リストが完成。

第3次の「買い物に行こう」では、4月の頃と違い、歩くのもしっかりしてきた。買い物の経験も、回を重ねているので、ずいぶん店の中での様子も慣れた様子になってきた。このときは、C君がガイドさんをした。出かける前に、自分から「D君、道、教えてね。」と頼んでいた。頼られるD君、「いいよ。」とにっこり。

それに加え、それぞれ作りたいクッキーが違うので、買い物の場面では、「～クッキーのブラウンシュガー、あるかねえ。」「Aちゃんのレモン、さがさんと。」と買い物への思いがいつもより、はっきりしている様子だった。

第4次の「クッキーを作ろう」では、「大まかな流れ」については、調理のたびに繰り返したので、慣れた様子で、穴埋めをしていた。「手を洗ったから次は・・・」と読みながら、動いていた。

準備中には、「D君、手伝って。」と声がかかり、大忙し。材料や道具をそろえるときには、D君を、「読み方・はかりアドバイザー」、E君を、「道具アドバイザー」と、紹介し、アドバイザーとのやりとりについて実演して見せた。自分のことをやり始めると、周りの様子が気にかからなくなりがちなD君なので、どうかなのと思いながら様子を見ていたが、いろいろなこともなく、「はいはい。」「はい。ちょっと待ってね。」と機嫌良く質問に答えていた。E君は、「つづき（は、あとから）」ということばで、作業を中断して、「～は、どれ？」と聞かれて、指さし、質問に答えていた。聞いた子ども達は、E君が自分の質問に答えてくれるのが、うれしい様子だった。

材料がそろい、いざ、作る段階になると、それぞれが選んだレシピをみながら、やっていた。Aちゃんは、さっそくバターをボールに入れていたし、C君は、レシピを声に出して読み、自分でもう一度読み直して、「いい？」と、ちょっと大人の確認をとっては安心した表情で作業していた。B君は、「レシピを順番に読んでは、やるのだ」という仕組みが実感でき、わからないときには、「次は？」と周りに聞き、一生懸命読みながらやっていた。D君、「ぎゃー、失敗だ～。やり直す～。」という場面もあったけれど、「はじめからやらなくても、こうすればいいんじゃないの？」というアドバイスを聞くことができ、ひどい混乱は起きなかった。E君は、写真資料を大人と一緒に確認すると、持ってくるものやすることがわかり、自分から作業を始めることができた。

印象的だったのは、生地を天板に乗せ、あとは焼くだけという段になったとき、「次、体育だ～。それ、おいといてね。かえってきて自分で焼くから。」と、D君が言ったことだった。また、このやりとりを聞いていなかったC君も、途中で時間切れになったときに、やはり「自分で焼くからね！」と言っていた。最後まで、自分でやりきりたいという思いが見え、ほほえましく思えた。

第5次の「プレゼントしよう」では、自分が作ったものをまず、家族の人数分、持って帰った。おうちの人に、大好評で、大喜び。明くる日に、「昨日のクッキー、どうだった？」と、尋ねると、口々に、「おいしいねって。」「これ、～ちゃんが作ったの？すごいねって。」と、話をしてきた。1年生のAちゃんとB君は、家で、材料の名前を言ったり、覚えている作り方を話したりし、興奮して話すその様子を見られ、「ぜひ、冬休みに作ってみようと思います。」と言われていた。

その後は、校内の他の子ども達にいつも「いい香り」だけしかあげていないので、「レシピをプレゼントしよう」という設定で、おさらいがてら、レシピを書いた。標題も作ろうということで、色画用紙に、自分とできあがったクッキーの写真を貼り、クッキーの名前を書いた。「コマーシャル書こうか。先生のだったら、さくさくよ、とか。」と言うと、B君が、おっとりとした調子で「おいしそうねって。」と、言った。日頃、自分の気持ちをことばにすることが少ないB君のこの一言に、感無量だった。作ったレシピは、子どもそれぞれのものを全部綴じて、家に持って帰り、家でも見てもらった。また、他の児童への配布用に廊下にも出してある。

みんなが作ったクッキーの数を数え、職員室の先生の人数を数え、袋詰めをして、プレゼントした。日頃かかわりが少ない先生には、ちょっと照れながら、「どうぞ。」と渡し、いろんな先生に「ありがとう。」を言ってもらった。C君は、それに加えて、担任の先生から、お礼のお手紙までもらって、うれしくてたまらない表情だった。

3. 成果と課題

(1) 児童の変容

自分のことを自分でやりながら、必要なところでは、お互いの力を生かすということができ、「やりきりたい気持ち」がでてきた。また、「やりきった」という思いから、「また、やりたい。」という気持ちにつながり、D君は、「今度は、違うの、作ってみたいなあ。」と言い、もう次の候補を決めている。先にも書いたように、1年生の子ども達も、家に帰ってから、しっかり、「できてうれしかったんだよ。」という気持ちをアピールしている。それが、おうちの人の気持ちを動かし、おうちの人の「やってみよう。」につながった。E君については、「この資料を見たら、E君、ほとんど、自分でできるよ。」と家族の方に伝えたところ、「お兄ちゃんも作ってみたいと言っているので、是非、レシピをください。」ということだった。E君が授業で使ったレシピをそのまま使ってもらうことにした。E君も家で、作って楽しむ時間が持てそうである。

(2) 授業作りの成果

4月段階で、「⑦大まかな見通し」について学習を入れたが、繰り返すことで、確実に身に付き、子ども達も「わかるのがうれしい。」という様子になってきている。「学習の方法」というような基本的に必要な事柄については、ポイントを絞って、繰り返していくことが、子

ども達の学習意欲を高めていくと思われる。

1 2月のクッキー作りにおいて、次の事柄が成果としてあった。

- ①「⑥選んで活動する場面がある」の選択の自由度を高め、自分が作りたいものを選ぶようにしたことで、4月段階とは、意欲面で顕著な違いが認められた。
- ②「⑧わかる資料を子どもが選ぶ」を加えた。レシピの形式の見本から、自分に適したものを選ぶ活動である。今までに、やったことがないことだったが、レシピの見本を見比べ、「自分は、これで。」と決めてみることで、「自分が作る」という意識も高まった様子だった。実際にやってみることで、「自分が選んだ資料でよかったのか。」がすぐに検証できるのも、大事な学習だと思った。
- ③「⑨頼り、頼られる場面の設定」では、「アドバイザーさん」の設定で、子ども達の力の違いを活用して「必ずかかわりが生まれる」状況を作ることができた。「だれが、何が得意なのか」をアドバイザーという形で、見えるようにし、かかわりかたについても、実際にやってみることで、頼りにする人も頼りにされる人も、かかわりを楽しむことができたと思う。また、「頼りにされてうれしかった」「頼るのが成功したことがうれしかった」というような様子が見受けられ、児童双方に自信になったように思う。

(3) 今後の課題

交流の授業があり、なかなか児童がそろいにくいという実態はあるが、その中でも、児童の内発的な動機付けを大切にするという授業の要素をはずさない取り組みをしていきたい。

情報の取り込みに関しては、「自分は、どの資料だとわかりやすいか。」「どのようにすると、わかるか。」ということが、自分で表現できるよう、こちらの働きかけを工夫する必要があると思った。まず、選択肢を作って、教師が適切なものを選んで子どもに渡すという段階がある。次に、提示された中から子どもが自分で選ぶ段階があると考え。さらには、子ども自身が、自分ができるところ、わかるところは「できる」という意識を持って堂々とやり抜き、必要なところでは具体的に援助してほしい内容を伝えることができるということも学習の内容として組んでいきたいと思っている。

資料2 この単元における児童の児童の実態と指導目標（及び手だて）

	A	B	C	D	E
人と の や り と り	大人への働きかけが活発。 ○わからないとき、できないときに、身近な人の助けを求める。助けを求め る相手を大人から、子どもへ広げる。 具体的なやりとりを目的でやって見 せることで、「よりよいかわり方」 を身につける。	いつもここにこにしている。人への 注意を持続させにくい。 ○名前を呼ばれると、気づき、注 意を向ける。「人の名前を呼んで、 尋ねる」方法を身につける。「貸し て。」の言葉を使う。物を受け取る ときに、最後まで手元を見る。 具体的なやりとりを目的でやっ て見せることで、「よりよいかわ り方」を身につける。	D児をとても頼りにしている。「手 伝って」「教えて」と、援助を求め ることができ。 反面、自分ができることまで、あき らめてしまう面もある。 ○下学年の児童・E児とのやりとり も楽しませたい。 具体的なやりとりを目的でやって 見せることで、「よりよいかわり 方」を身につける。	低学年の児童へのかかわりが出てきて いる。 ○「やってあげる」から「了解を得て から、手伝う」に移行させる。学習中、 自分のことをやりながら、他児にもか かわる。 具体的なやりとりを目的でやって見 せることで、「よりよいかわり方」を 身につける。	大人とのコミュニケーションが主 体。できることは多いが、子ども との間で発揮されにくい。 ○他児に、本児にかかわる方法を 具体的に示しておき、働きかけに 応える形で、関係を作る。
意 思 表 示	やりだいたいときには、言葉で言う。やり たくないときには、 動きが止まる。 ○「やりたくない?」「わからない?」 など、場面に応じた言葉を担任が使い、 A児の反応を引き出す。	やりだいたいときには、周囲ではしゃ いでいる。「わかる」「わからない」 の状況が、自分でまだよくつかめ ていない。 ○やりだいたいことが言葉になりにく いので、文字を見て思い出して言 う。実際に行動してみることによ って、「わかったか」「わかってい ないか」をはっきりさせる。	日常の意思表示は、スムーズにでき る。 ○「何をしたかったの?」と尋ねる ことにより、やりだいたったこと・や りだいたった気持ちによりはきりす るようになる。	日頃の意思表示はできる。 ○何か引っかけがありがあると、思考が難 しくなることがあるので、担任がいく つか選択肢を提示し、その中から選ぶ。	カード・文字を使ったり、決まっ た言い方での要求表現をしたりす る。 ○写真・カードなどで、やる内容 を示し、やりたいことが伝えられ るようにする。
選 ぶ	自分で選ぶ経験が少ない。 ○何を選ぶのかわかるように、資料 提示をし、他児が選ぶ様子を見る場面 を準備し、時間が経っても自分で選 んでみる。	A児と同じ	「見えない」と思っているところが あり、選ぶ場面でも 「ま、いっか。」と手近にある物を 選んだりすることがある。 ○「見えるか見えないか」を確かめ た上で、自分で選ぶ。	自分で選ぶと、気持ちを持続させるこ とができる。 ○選ぶときに、選択肢を提示して、選 びやすくするとともに本人の中の「選 ぶもと」を増やす。	新しいこと・見慣れないことにつ いては、言葉だけで選ぶことは難 しい。「選ぶ」ということの意味 は、わかりつつある。 ○見える物を準備し、イメージが 具体的にわくようにしてから選 ぶ。
見 通 し ・ 計 画	やったことがあることについては、先 を読んで、手伝うことができる。 ○写真・文字を使い、自分で動ける場 面を増やす。 ・繰り返しの学習により、大まかな見通 しがもてるようにする。	「今、やっていること」への集中 が難しいことがある。 ○環境調整をすることと、やりだ いことへの気持ちを高めることで、 集中できる場面を増やす。 繰り返しの学習により、大まかな 見通しがもてるようにする。	今までの活動を思い浮かべることが できる。 ○「次はなにをしたらいいかな?」 の質問に答える。文字での資料も手 がかりに加える。	大まかに活動内容をとらえることがで きる。 ○活動がうまくいくための順序につい ては、自分で予測をたてるのが難しい ので、一つ一つ、内容を確認しながら、 本人と一緒に組み立てる。書いた資料 を準備し、やり終わった項目をチェッ クしながら、やっていくことで活動が うまくいくようにする。	「いま、やること」がわかると、 スムーズに作業できる。 ○わかる資料を使い、「次は、こ れ」という風に活動の変わり目で、 声をかけることにより、活動の持 続時間を増やす。
お 金	4月段階では、硬貨のマッチング	4月段階では、硬貨のマッチング	3桁の数字を見て、お金をそろえる ことができる。	おつりがだいたいわかる。「～人分の計 算」のイメージがわかり始めたところ。 （数字での計算は、分数のかけ算・わ	「何十」、「何百」という言葉を聞 いて、語尾の発音の違いに気づく ようになっていく。

買 い 物	大人と一緒にの買い物に慣れている。 ○お菓子のコーナー以外では自分で見て探すことがあまりなかったようです。 売り場全体をじっくり見て探す。	買い物にあまり興味がなく、家庭でもあまり一緒に行っていない。 ○何度も友達と一緒に行くことで、売り場の雰囲気慣れ、自分で見たり搜したりする。	駄菓子屋さんなど、ひとりで買い物をするができる。 ○大きい店では、「だいたいこの辺」と、予想をつけることが難しい。売り場で、「ここは、どんなものかおいてある？」と話しかけ、売り場を見て考える。	り算までできる。） 買い物は、できる。 ○売り場がわからないときに、「ねえ、～、どこ？」と店員さんに聞くことができるので、より丁寧な言い方を身につける。	写真を見て、売り場から見つけ出すことができるようになった。家の冷蔵庫の在庫チェックをして、なくなったものを、買い物かごに入れるお手伝いができる。 ○文字のメモで、わかる物を増やす。
道 案 内	前の人を見て歩く。	前の人を見て歩く。	空間のとらえが、得意ではないが、案内役をやってみようという気持ちが出てきている。 ○わからないときにきくことが気軽にできるようにする。 実際に動きながら「まっすぐ」「右」「左」のことは聞いて、行動できるようにになる。	やりたい気持ちでいっぱい。 ○ガイド役の時は、周囲をしっかり見るよう促すことで、自分でわかって動ける楽しさを、経験させる。また、必要所でことばかけをし、後ろにいる友達を意識した行動ができるようにする。ガイド役の友達のフォローする役も経験させ、友達の役に立ったことを実感させる。	身近なお店への道順など、自分でわかるところがある。 ○道順と行き先の名前を一致させる。先頭を歩く経験をする。
歩 く	歩行時のバランスが不安定。斜面や段差に気づきにくく、転びやすいので、大人と手をつないで歩いている。 ○安全確認の仕方について実地で学習する。	周りに気が散りやすい。前の人との間隔を保つのが難しい。 ○「～ちゃんのところに行ってね。」という言い方で、前の人存在に気づくようにする。 立ち止まって左右を見る習慣がないので、安全確認を実地で学習する。	自分が見る信号が、わかるときとわからないうときがある。 ○信号を渡るたびに、大人と一緒に確認する。	様々な道路状況（仕事をしている人がある・工事中など）に応じて、どこを通ったらよいか、どこにいたら安全かを立ち止まって考えるようにする。	道路の端を歩くことが定着してきた。信号を見て「青で進む」「赤で止まる」がわかって行動できるようになった。 ○信号のない交差点で、立ち止まって左右を見ることを、大人と一緒に必ずする。
調	何かを作ることは大好き。 ○文字を一字ずつ読むので、文節ごとで大人が言い直し、意味がつかめるようにする。 写真を介在させて、そろえるもの・やることがわかるようにし、自分で動けるようにする。特に「見る」「探す」活動を楽しませたい。	A児と同じ	作ってみたい気持ちはある。 ○読む力を最大限活用する。 調理の経験が少ないので、「どんなものなのか」「どうやるのか」を知らないことがある。 気軽に聞いて、解決できるようにする。	休憩時間に料理の本を読んでは、うれしそうにしている。 ○テレビを読むことができるが、順序にこだわらないところがあるので、確認のことばを入れて、気付けさせるようにする。 だいたいの動作はできるので、自分が作るだけでなく、友達に目を向け、働きかけができるようにする。どのような助けたらよいのかを実際にやって見せ、実行できるようにする。	食べたいものを選ぶことができるようになってきた。 ○調理では、できあがりの写真を見て、「作りたい物を選ぶ」に広げる。 写真資料を使い、やることがわかるようにし、自分から作業に取り組むことができるようにする。 友達からの働きかけにに応じ、自分ができることをやる。
理	何かを作ることは大好き。 ○文字を一字ずつ読むので、文節ごとで大人が言い直し、意味がつかめるようにする。 写真を介在させて、そろえるもの・やることがわかるようにし、自分で動けるようにする。特に「見る」「探す」活動を楽しませたい。	A児と同じ	作ってみたい気持ちはある。 ○読む力を最大限活用する。 調理の経験が少ないので、「どんなものなのか」「どうやるのか」を知らないことがある。 気軽に聞いて、解決できるようにする。	休憩時間に料理の本を読んでは、うれしそうにしている。 ○テレビを読むことができるが、順序にこだわらないところがあるので、確認のことばを入れて、気付けさせるようにする。 だいたいの動作はできるので、自分が作るだけでなく、友達に目を向け、働きかけができるようにする。どのような助けたらよいのかを実際にやって見せ、実行できるようにする。	食べたいものを選ぶことができるようになってきた。 ○調理では、できあがりの写真を見て、「作りたい物を選ぶ」に広げる。 写真資料を使い、やることがわかるようにし、自分から作業に取り組むことができるようにする。 友達からの働きかけにに応じ、自分ができることをやる。

がっ になち (ようび)

ねん くみ ばん なまえ

をつくらう

クッキング(ちょうり)のやりかた
(おりょうり・おかしなど、たべるものをつくるとき)

① を せっけんで あらう。

② を つける。

③ を そろえる。

④ を そろえる。

⑤ を つくる。……つくりかたを よんで つくります。

⑥ おいしいかな？

⑦ ……しよつきを ながしに もっていく。
しよつきを あらう。
しよつきを かたづけける。
ながしの まわりを そうじする。

1. なに つく
何を作るのかな？

○

○

○

2. つく
どうやって作ろうか？

① いちばんに、どれをつくを作る？

メニューにばんごう番号を付けよう。

② できる？ 「できる」 にも、いろいろあるよ。

㊤ なに 何も見なくても、できるよ。

㊦ レシピを見たら、できるよ。

どのレシピを見る？

㊧ だれかにき聞いたたら、できるよ。

「なんて、よむの？」

「これ、なに？」

「どこにあるの？」

「どうやるの？」

「どのくらい？」

「これくらいでいい？」

③ ^{きょう}今日の やくそく

- 小さい人から、じゅんに^た食べられるようにしよう。
- 大きい人は、^き聞かれたら^{こた}答えよう。
- ゴミは、すぐすてよう。
- ^{りょうり}料理ができあがるまでに、^{どうぐ}つかった道具をあらっておこう。

3. ^{ざいりょう}材料がそろっていますか？ レシピを見て、チェック！！！！

(ぜんぶありますか？)

★ ^{りょうり}料理の^{じゅんび}準備をしよう

1. ^{あら}手を洗う。
2. エプロンをつける。
3. 手ふきタオルをポケットに入れる。



ワークシート2

屋 ぐ 飯 を 作 ろ う

★みんなは、屋ぐ飯、何を食べているかな？

赤： 体をつくる
黄色： ねつや力、エネルギー
みどり： 体のちようし、びようきになりにくい体になる

★自分が作りたい屋ぐ飯は？ 赤・黄色・みどりの食べ物全部あるように考えよう。

メニュー1

メニュー2（またはトッピング）

メニュー3（またはトッピング）

★作り方を知っていますか？

メニュー1

知っている 知らない

メニュー2

知っている 知らない

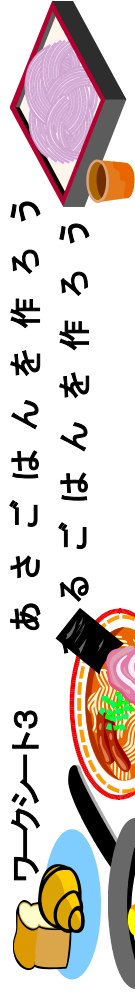
メニュー3

知っている 知らない

★作り方をどうやって調べますか。

- ①作っているところを家族の人に見せてもらう。
- ②作り方を家族の人に聞いて、メモする。
- ③レシピをさがす。→レシピを持ってきてね。

★6/16 月曜日に、作るのに必要な材料を持ってきてください。
足りないものは、おうちのひとと相談したり、自分で買い物をしたり
しましょう。



ワークシート3 あさごはんを作ろう
るごはんを作ろう

☆ 7月3日（木）には、何を作りましたか？

☆ 友だちが作っていたものを思い出しましょう。

☆ 味見させてもらったのは、どれですか？
上の名前とメニューに赤で○をつけましょう。

☆ 友だちが作ったもので、おいしかったのは、なんですか？

☆ 1学期に、自分が作ったものを全部書きましょう。

びっくり！たくさん作ったね！

☆ 夏休みには、何を作ろうかな。
家族のひとと計画を立てましょう。